

## 平成28年度 第1回宗像市総合教育会議議事録

【日 時】 平成28年7月26日（火）午前10時から午前12時17分

【場 所】 宗像市立河東西小学校 図書室

【出席者】 宗像市長 谷井博美  
教育委員 中岡政剛  
教育委員 宮司葉子  
教育委員 白石喜久美  
教育委員 石丸哲史  
教育長 遠矢修

【その他の出席者】 教育子ども部長高橋勇次、子どもグローバル人材育成担当部長清水比呂之、教育子ども部主幹指導主事阿部龍彦、教育政策課長の野仁視、教育政策課指導主事高木陽一郎、教育政策課指導主事守浩一郎、教育政策課指導主事佐々木真理子、秘書政策課長長谷川勝憲、学校管理課長竹下俊史、子ども育成課長村上治彦、子ども育成課社会教育主事薄伸也、教育政策課政策係長廣渡恵三、教育政策課学務係長山本幸江、秘書政策課秘書政策係長飯野英明、教育政策課政策係企画主査船越健樹、  
※傍聴 4人

### 1 開会

【谷井市長】 皆様、おはようございます。去年度、市長である私と教育委員会との協議の場として宗像市総合教育会議が設置され、教育委員会の中立性といったものを心配される動きがございましたが、あくまでも従来通り教育委員会は教育委員会として事業を推進していただき、市長部局は政策、予算について一緒にやってまいりました。本年度においても子ども目線で従来通り事業を進めて参るということで、ご理解いただきたいと思っております。今日は2つの議題について協議します。

### 2 協議事項

#### (1) 宗像市におけるICT教育について

【谷井市長】 「宗像市におけるICT教育について」事務局から説明をさせます。

【高木指導主事】 本日まずタブレットをご使用いただいて、子どもたちが普段どのような授業を受けているか体験していただこうと考えています。その後27年度の成果について、28年度の計画について私から、そして自由ヶ丘小学校から特別支援学級におけるタブレットの活用、最後に学務係長の方から今後の取り組みを説明します。では早速ですが、本日は模擬授業という形でタブレットの体験をしていただこうと考えています。2つ

考えておりますが、時間の都合上、後半部分は少しになるかもしれませんが、時間を見ながら進めて参りたいと思います。まず最初に4年生の算数の学習です。資料はお手元に配布しております。すでに長方形や正方形の面積の求め方は習っているのですが、今日はこの新しい問題に出会うというところから授業を始めます。では、皆様今日はこの図形について面積を求めていただきます。どのように求めればよいと思いますか。子どもたちにはよく見通しというのですが、どのように求めればよいと思うか少し考えてみてください。

#### 《タブレットを使用した模擬授業》

**【高木指導主事】** 27年度の取り組みからご説明します。27年度は「全国学力学習状況調査の平均に対して5ポイント以上アップ」、「授業は楽しい児童生徒90%」、「授業はわかりやすい児童生徒90%」、「学校ホームページの作成と月1回の更新」、そして「ICT機器と活用経験のある教員100%」を目指し、目指す子どもの姿を実現するために、この4つの視点から手立てを講じて参りました。重点として取り組んだ教員におけるICT活用を充実させるために、一般の先生方には3年間かけて宗像市全教職員を対象に行う、「簡単、楽しいICT研修会」の第2期目をはじめ、ICT活用モラルを確認し、有効活用についての情報提供を行いました。また、教育大学と連携し、ICTの効果的な活用に関する講義を福岡教育大学の教授からしていただく、「授業を楽しくするICT研修会」を夏季休業中に行いました。次に各学校でICT活用の中心となる情報担当者には、電子黒板で使う教材をICT支援員と共同開発した授業を基に、教材開発の在り方と黒板と電子黒板をどのように併用するか、子どもの理解を深めるアナログとデジタルの使い方の研修を行いました。さらに、各学校が抱えている課題に合わせて研修会を行うことができるよう、ICT支援員による研修を実施。Excelの使い方がわからないなど基本的な研修から、授業でどのようにICT機器を有効に活用していくかの研修まで、幅広く学校のニーズに合わせた研修を行うことができるようにしました。タブレットについては、河東西小学校、日の里中学校に本格的な導入を行いました。本日は谷井市長をはじめ、委員の皆様にも実際にタブレットを活用していただきましたが、授業ではこのような形で活用しております。これは算数の学習の中で、2人組でその解法について話し合いながらタブレットを使って学習している様子です。このように算数の授業において2人で活用する以外にも体育の授業で自分たちの跳び箱の跳び方をグループで見るような活動や、理科の学習で台風の動きを動画で見るような学習に活用するなど、様々な授業に使われ、どのような活用の在り方がより有効なのか検証を進めて参りました。では、このような取り組みの結果についてICTの活用部分を中心に説明いたします。まず、「電子黒板等ICT機器活用経験のある教員」については平成26年度が65%であったのに対し、88%に増加しました。次に、「学校ホームページの更新」も月に1回は確実に行われるようになり、各学校の情報を発信しております。また、児童生徒に目を向けますと、年度末のアンケート調査

から「授業が楽しい」と感じている児童生徒は平成26年度は70%だったのが平成27年度には85%に上昇しました。さらに「授業がわかりやすい」と感じている児童生徒の割合の「よく思う」の項目は平成26年度は37%だったのに対し、27年度は47%に増加しています。残念ながら目標には達成しませんでした。教職員の活用率や、児童生徒の意識からは確実な伸びが見られるという成果を27年度はあげることができました。この成果をさらに伸ばすために、平成28年度の取り組みについて説明します。平成28年度は「宗像市学校アクションプラン2016」を実現すべく、自立し、かかわりを深める子どもを育成するためにICTの使用として次の5点を挙げています。「全国学力学習状況調査5ポイント以上」、「授業が楽しい児童生徒90%」、「授業がわかりやすい児童生徒90%」、「各学校データ整理状況80%」、「ICT等活用経験のある教職員100%」でございます。基本的には平成27年度の指標を踏襲し、4つの視点の取り組みを充実させていきますが、達成できたホームページの目標に変え、「各学校データ整理状況80%」という新しい指標を設定しました。この目標について少し説明を加えます。各学校ではICT関係の活用が進み、先生方はデジタル教科書を活用するほか、各自でデータを作成し授業で活用しています。しかしながら、このデータがまだ個人所有となっているものが多いのが現状です。そこで、このデータをまとめ、色々な先生が作られたデータをまず校内で共有し、授業で活用すれば、授業が楽しい児童生徒の割合、わかりやすいと感じる児童生徒の割合、そして教職員の活用術、さらには学力の向上にも大変有効に働くと考えたのです。したがって、平成28年度は4つの視点の取り組みは継続しつつ、このデータの整理が進むよう、情報担当者による働きかけを充実させようと考えています。具体的には各学校でアンケート調査を行い、教職員の情報共有化に対する意識を高めると共に、各学校で共有化を進めるための方策を検討し実施してもらいます。そしてその方策を、情報担当者の研修会で交流することを通して、各学校の取り組みを充実させます。また、タブレットに関する取り組みについては河東西小学校、日の里中学校で引き続き有効な活用方法の在り方の研究を積み重ねます。さらに、それぞれの学校でこれまで積み重ねてきた研究成果の発表として河東西小学校は9月30日に福岡県ICT活用教育研究授業実践報告会として公開授業を行うとともに、2月20日には福岡県教育センターで行われる研究授業研究報告会において報告いたします。日の里中学校は10月28日に福岡県重点課題研究指定委嘱報告会として小中一貫と共に研究発表をする予定になっています。更に本年度は教職員の負担軽減のための校務の情報化による校務事務の効率化として、小学校の全校に校務支援システムを導入し、来年度より稼働させることとしています。以上で、私からのICT教育についての説明を終わります。先ほど、タブレットにつきましては、河東西小学校、日の里中学校について説明させていただきましたが、この後、特別支援学級でタブレットを先行的に活用している自由ヶ丘小学校の取り組みを説明していただきます。そして最後に学務係長から今後のICT導入計画について説明します。では、準備をしますのしばらくお待ちください。

《宗像市立自由ヶ丘小学校の特別支援学級での取り組み紹介》

【教育政策課学務係長】 学校での機器の導入状況と今後の計画について説明します。その前に、デジタル機器を各学校に入れているのですが、今日ご覧いただいた電子黒板と、それからデジタル教科書、実物投影機を学校に配備しております。それで、デジタル教科書を実際にご覧いただこうと思ひましてご用意しました。これは6年生の古典の学習の場面で「竹取物語」という題材です。

《デジタル教科書実演》

【教育政策課学務係長】 こういった電子黒板を現在各学校に大体4台程度、全部で85台導入しております。電子黒板や電子教材等の導入の検討ということで、平成24年から導入してまいりました。これにつきましては学年1台程度を現在目指しております。大体平成30年度には達成できそうな状況にはございますが、現状、小学校では各教室1台デジタルテレビが入っていますので、将来的にはそれに代わる存在として、各クラスに1台導入するようになるのではないかと考えております。それからデジタル教科書につきましては、4年ごとに改訂がございまして、まだまだ高価なものになっております。国では、今は教材として取り扱われているのですが、これを教科書として取り扱うというようなことも検討されていますので、今後価格帯や供給方法については、十分変わってくるのかなと考えております。それから、今日みなさんにもお使いいただきましたタブレット、こちらにつきましては、ご存知の通り河東西小学校と日の里中学校、そして今日報告いただきました自由ヶ丘小学校に配備をしております。河東西小学校と日の里中学校には、それぞれ50台。自由ヶ丘小学校では、モデルとして15台で、特別支援学級を中心に導入しております。これにつきましても3年間の成果が見えてきているところかなというところで、29年度から少しずつではありますが、大体2校ぐらいに導入していきたいと考えております。ただ、2校ずつ入れますと、全市内、全配備をするには何年もかかってしまいますので、教育委員会に貸出のタブレットを設けるなどして、市内で活用が十分にできるような体制をとりたいと考えております。それから平成21年度から、各学校の校務パソコンを整備しております。それから校内のネットワークについても21年度に一斉にやってきている経緯がございますので、こちらの入れ替えの時期も迎えているところでございます。これについても順次、更新していくように計画しています。これらにつきましては、ご存知の通り予算もかかることですので、ぜひ今後のICTの在り方についてご検討いただければと存じます。

【教育政策課長】 ICT教育についての報告は以上です。これからは、協議および意見交換等を行っていただきたいと思ひます。担当からも今までの説明を申し上げましたので、次年度以降の事業の方向性等について、質疑も含めまして15分程度を目途にご協議

いただけたらと思います。

【中岡委員】 今後の方向性ということで、協議ということですが、充実させていけないといけないということは当然だと考えております。その方策としては、やはり予算を伴うものですから、そこをどう解決していくのかというのがやはり一番の課題だろうと思います。県あるいは国の方でも、このICTの導入については環境整備も含めて、予算措置をしてるということですので、その予算、あるいは補助という形のものがあれば、それを活用することが考えられないかと思います。そのあたりの見通し、市として考えることがあれば教えて欲しいと思います。

【教育政策課学務係長】 まず国ですが、今おっしゃったように、国は財源を地方にやっているとということで、交付税措置としてICTに関する予算が市に入ってきている状況でございます。ただし、交付税というと、市に入るときには、どの予算か分からない仕組みになっておりますので、結局、いくらICTのために国からお金をもらえたのかというのが不透明なところがございますので、国からの財源として財政と検討していくというのがなかなか難しい状況でございます。続きまして県ですが、今年度から3年間で電子黒板を小中学校に1台、1校1台の3分の1だけ補助するというので、今年から募集がっております。もちろんそれについては、市でも予算化しておりましたので、補助金の申請はしてはいるのですが、3分の1補助ということと、まだ現状としては1校に1台の補助ということでございますので、私どもが目指しているところは、まずは学年に1台、それから各クラス1台程度と考えておりますので、それにはなかなか予算としても難しい状況かと考えています。

【中岡委員】 電子黒板とか大型の機器というのは、ちょっと難しいとは思いますが、パソコンとかタブレットについては、自由ヶ丘小学校で株式会社日本HP社と連携した事業が始まっているということですので、もっと色んなところと連携することができないかと思います。

【教育政策課学務係長】 宗像市にどんどん入れてくださる企業があれば一番いいとは思いますが、このタブレットというのも世の中に出て何年か経っておりますので、新しい事業展開というところでは、よく企業はお試しでというか、自分のところの企業の知名度を上げたりするための方策として、新しい事業を起こしたときに、そのための措置としてはよく入れてはくださりますが、現状としてタブレットが入っている地域もございますので、多数のものを入れていただけるのかどうかは、まだ見通しが立っていないところです。ただ、おっしゃられるように株式会社日本HPさんの方でも15台ということで、台数は少ないですけども入れていただけたというのは大きかったと思うので、お話しがあれば今後も積極的に活用したいと考えております。

【中岡委員】 自由ヶ丘小学校の特別支援学級の株式会社日本HPとの連携の中身は非常に興味深いもので、これからもっと進めていただきたいと思っています。それと合わせて、各小学校の方にもそれを広げていくという取組みと自由ヶ丘小学校は自由ヶ丘中

学校に入っていきますけれども、自由ヶ丘中学校にも当然、特別支援学級がありますので、それを、小中一貫の取り組みとして、中学校の方にもぜひ広げていただくということを、やはり教育委員会としてはやっていかないといけないのかなと思っております。

【教育政策課学務係長】 今、小中学校が違う校区のところに入っておりますので、その辺を考えながら、今後の導入も進めて参りたいと考えています。

【谷井市長】 先ほど説明がありましたように企業ですからPR的に特別支援という分野で宣伝も兼ねて実施したいとお話がありました。特別支援で1つのモデルでやってみて成功すればそれを広めていきたい、私としてもICT教育には力を入れてきましたので。ただ、高価なものですから一気に導入できないので、できるだけ支援的な形で入れてくれるところを考えていきたいと思います。できるだけ早くそれぞれの小中学校まで入れていきたいという計画は先ほど申し上げた通りです。ただスピードが遅いものですから。国の財政措置も今は交付税として入っていますが今後は分からない状況です。県はやっとそういう動きを見せてきましたが、これを加速度的にやるには、国が交付税措置をしているということですので、一般財源の他のものに使うのではなく、ICT整備にできるだけ使いたいと考えます。議会でも議論していかないとイケません。そういうものが実際に、このICTに回っているかっていう検証はしていきたいと思っています。ICTに関してまさに日本は取り残されていく状態にあると考えます。まずは宗像市から子どもたちにそういう力をつける、あるいは学習能力をつける、先生の負担を軽減するということをしていきたいです。

【白石委員】 今の件は実現を早く、スピーディーにお願いします。現在の状況を見ていると、予算配分が大変なことは分かります。その中で、新しい道を見出していくにはやはり交付税ですね。市長から力強い言葉を頂くことができありがたいと思います。他のものとの兼ね合いも大きいでしょうが、できるだけ教育に使用して頂ける方向でお願いします。

【谷井市長】 そうですね。先ほども申した通り高価なものです。しかし近隣諸国では、本当に導入が進んでいて日本が遅れているという危機感を持っています。国や県もやっと、腰を上げたという状況です。宗像市の子どもたちにはそういうグローバル化、国際化の中で、そういう育成の中での1つとしてICTで力をつけていきたい。ただ、そういう予算を執行するには、ICTの効果を客観的に発信し市民が理解できるようにしないとイケない。議会に理解してもらおうということが私の仕事かなと思います。

【石丸委員】 市長がおっしゃったようにハードが高価なのでソフトとの関係で、いろいろ投資効果というものがやはり議論されてくると思うのですが、おそらくハードの部分はこれからどんどん値段は下がっていくでしょうし、そういう意味では昔に比べると、だいぶコストは下がってきたと思います。コストが下がって整備されたときに、実際に使われる先生方が効果的に使えるようになっておくということが重要だと思います。これはハードほどコストがあまりかからないと思うのですが、昔に比べますと、本当にこういう

情報インフラというのは整備されていて、その次の段階というのが環境ですかね。使い方を練習していただいているということで、インフラとそれから環境の部分は整ったと思うのですが、やはり1番重要なのは雰囲気だと思います。先生方が、じゃあタブレットを使ってみようかとか、こういうので使ってみようかっていう場面で、これを使ったらいいのになとか、そういう必要感を持っていただかないと、逆にソフトが充実していきますと、ソフトに振り回されるというか。こういうのが使えるんだ、こういうのが便利なんだっていうことで、本来その授業で必要かどうかという検討もせずに、つつい使ってしまうということができるだけないように、整備されるまでに、ぜひ先生方の研修をお願いしたいところです。そうしていくと現在話題となっておりますポケモンGOみたいなですね、いわゆるAR、オーギュメントリアリティーのああいって部分というのは、例えば社会科なんかというのは今日出てきましたように、例えば地図のどこかをポイントするとその景色が出てきたり、そういう良い効果もあるので、要はそれをどう使うかというのが重要になってくるだろうと思います。そういう意味で、ソフト面というよりも先生方がどう使っていくかという部分の研修をぜひお願いしたいと思います。

【谷井市長】 おっしゃる通りだと思います。先生方の研修についても、先ほど報告がありましたように、88%から100%にするということですので、研修制度についてはまた教育委員会にお願いしたいと思います。

【高木指導主事】 実際に先ほど説明しましたが、やはりデジタルばかり使うのがいいとは考えておりません。やはり教職員それぞれの授業技量というのが大切なので、まずそこを高める。そして今、石丸委員からもありましたが、どの場面でどのように使うかが1番大事です。子どもたちが分かりやすくなるように。だから使う必要がないところは使わなくていいところを、しっかり研修していきたいと思っています。また、電子黒板だけでは、授業自体も子どもの理解も深まりませんので、黒板を併用していくことも大事だと考えますので、そのような観点からさらに教職員の研修は進めていきたいと思っています。

【宮司委員】 初めて使って、すごく集中できたんです。子どもたちもこれが使えるようになると、どんどん集中して授業ができるなと思います。今タブレットが導入されるところの子どもたちは結構使えるようにはなっていると思うんですけど、まだ導入されていない他の学校の子たちとの差がやはりちょっと出てきているんじゃないかなと思うんです。だから、その差がないように、この授業が楽しいとかというアンケートなども、学校別が出てないので分からないんですけど、どの宗像市内の学校でも、みんなあまり差がないような感じになったらいいなとは思っています。

【谷井市長】 私もグローバル化人材育成に取り組んでいますが、そういった中でICT教育は避けて通れないものですね。先生からもありましたが、どういうふうによくICTを利用するか検討していかなければなりません。私の役割としては予算をどう確保していくのか。教育の方針、考え方は教育委員会で検討してもらおう。この総合教育会議

の良さというのは、まさにこのように課題を市長部局と教育委員会が共有することです。そのメリットを生かして、私としては、できるだけそういう期待に応えるような、教育委員会の期待に応えるような、政策を考えていきたいと考えております。

【教育政策課長】 それでは1つ目の協議はこれで終了します。

## (2) A L Tを活用した外国語教育について

【教育政策課長】 宗像市におけるA L Tを活用した外国語教育について現状を佐々木指導主事より説明します。

【佐々木指導主事】 宗像市A L Tの活用の現状について報告します。本市では平成8年からA L T配置事業による英語活動を展開し、「英語が使える宗像の子」の育成を図ってきました。平成18年度からは小中一貫教育における前期、中期、後期の教育区分に応じて外国語教育で目指す児童・生徒像を設定し、9ヶ年を通した指導の充実を図って参りました。平成22年度からは学習指導要領改訂による平成23年度からの外国語活動に先駆け、小学校3年生から、中学卒業まで、A L T配置事業を活かした外国語活動を展開し、子どもたちのコミュニケーション能力を伸ばす外国語活動の充実を図ってきました。平成27年度からは、小学校の外国語活動から中学校の外国語科への円滑な接続を図り、聞く、話す、読む、書くの4技能のバランスの取れたコミュニケーション能力の育成を目指しています。特に、前期小学校1年生から4年生では「英語に慣れる」、また、中期前半小学校5、6年生では「英語に慣れ親しむ」姿を目指す児童像とし、小学校では話す、聞くを中心とした、英語でコミュニケーションができる児童を目指しています。この目指す姿を育成するために、A L Tを効果的に活用し、更に工夫改善できるよう、A L Tも一緒に参加した市主催の研修会を開催する、A L T活用の記録をアンケートにとり、学園で原則同一のA L T配置を行う。A L Tを活用した授業の時間数をきちんと確保する、各学校の特徴を活かしたA L T活用の形態を工夫することを行っています。どの学年においても、A L Tを活用した事業の時間数が下回ることはないよう工夫をしています。さて、お手元の資料、平成27年度宗像市A L T配置事業計画を一緒にご覧ください。この中で、外国語活動の授業時間以外でのA L T活用について検証を行うため、河東小学校にA L Tを1名、単独配置しています。また吉武小学校にも、コミュニティーセンターに1名、単独配置しています。そこで今回は、河東小学校が行っている取り組みと、外国語教育に関するアンケート結果をもとにA L Tの単独配置事業の報告を行います。

河東小学校ではA L Tが単独に配置されているため、他校よりも頻繁に児童と接する機会を与えられ、授業だけでなく、幅広く校内のイベントや外国語活動以外の授業に活用されています。表をご覧ください。ご覧のように河東小学校は、他校とは違った独自の取り組みを行っていることが分かります。特に、「河東っ子英検」は日本英検の児童向けテスト児童英検を参考としたもので、3年生以上を対象としています。A L Tの先生を中心に問題を録音し、1から5級のリスニングテストを行い、80%以上の正答で合格とし合格証を

渡しています。これが河東っ子英検 2 級の実際の問題です。特にこの、赤丸の部分を見てください。英語でのスリーヒントクイズ形式で当てはまる絵の下に丸を付けます。「I am strong.」「I have good friends.」「I go to Onigashima.」このように 2 級の問題は英語教材「Hi, friends2」に出てくる会話をもとに作成されています。これはあくまで、児童のモチベーションをあげるためのテストで、自分の達成度を知り、できたことを喜べるテストにすること、また、今後の児童の英検受験につながりやすくすることを目的としています。昨年までの 2 年間で延べ 900 名の児童が参加し、100 名が 1 級を取得したと報告を受けています。次に今から映像をお見せします。1 学期最後の外国語活動の授業で英語パフォーマンスコンテストを行っている 6 年生の様子です。パフォーマンスについての評価などをほとんど英語で行い、子どもたちが一つ一つ英語を集中して聞いています。そして、カメラ撮影をしているのが ALT のトニー先生です。残念ながら姿は映っていませんが、ネイティブな英語に素直に反応している児童の姿をご覧ください。

#### 《映像上映》

【佐々木指導主事】 このように、河東小学校では多くの児童が、ALT が常駐していることに対し前向きな印象を持っています。ALT が毎日学校にいて、さまざまなシーンで ALT と積極的に関わっていることが分かります。昼休みに外国語活動室に行けば、必ず ALT に会えるといった環境をつくってあり、児童が気軽に ALT と触れ合えるよう工夫しています。次に小学校の教師の反応を報告します。まずは河東小学校の教師アンケートからです。「授業だけでなく子ども・職員とのコミュニケーションづくり、環境づくりなども意欲的に活動してくださっています。」と、日ごろの授業以外でも児童との関わりについて、評価していることもわかります。また、「失敗を恐れずに大きな声で英語を使う子どもが増えた。これからも ALT 人材の確保をよろしくお願いします。」と、ALT が常にいることでただ英語を使うということだけでなく、「大きな声で」という言葉から、児童にも表現力が備わってきていることを実感してきていることがわかりました。さらに、外国語活動における ALT に関する満足度は、宗像市立小学校の先生方で「とても満足」と答えた方は、142 名中 77 名（54.2%）であるのに対し、河東小学校の先生方は、11 名全員が「とても満足」でした。河東中学校で現中学 2 年生の英語科を担当している教諭は、6 年生で ALT の先生と毎日触れ合った生徒を今実際に授業で受け持っておられます。生徒たちは非常に英語に慣れており、4 技能の中でも「英語で理解する力」であるリスニング、「英語で話す力」であるスピーキングの力が特に優れていると語っていました。これは、話す、聞くは 4 技能の中でも小学校段階でも身につけさせたい力であり、宗像市が目指す中期前半の力「英語に慣れる・親しむ」といった目標に合致していると言えます。また、現中学校 1 年生担当の教諭は、2 年間 ALT の先生と共に勉強してきた河東中の 1 年生を今受け持っておられます。1 年生担当の教諭は、「英語のコミュニケーション能力に高

く、こちらからの英語の突然な振りにも、『That's good idea.』と答えるなどと物怖じせず、英語を恥ずかしがらずに使うことができる生徒たちです。河東小学校、河東西小学校から入学してきた生徒もそれにつられるように答えたりと、入学して3か月経った今は、相乗効果が表れてきています。」と語っていました。さて、本日は、河東中学校主幹教諭においていただきました。先生は、河東中学校での英語科を担当しておられると同時に、実は河東小学校、河東西小学校への兼務教諭として週に1回ずつ、外国語活動の授業を行っておられます。先生から現状について報告していただきます。

#### 《河東中校区の取り組み紹介》

【佐々木指導主事】 では、最後にアンケートによる報告を行います。「外国語活動が好きですか」という小学生に対する問いでございます。外国語活動に対する意欲について、肯定的な割合を比較します。宗像市全体の平均は、81%であるのに対し、河東小学校の児童は94%と宗像市平均を大きく上回っています。「ALTの先生と一緒にする授業は楽しいか」というALTとの学習についての意欲について、宗像市全体は83%であるのに対し、河東小学校は96%でした。また6年生は、宗像市全体が76%であるのに対し、97%とかなり高い数値を示しています。宗像市では、学年が上がるにしたがって、肯定的な評価が若干低くなる傾向にあります。これは、発達段階にも左右されているというふうに思いますが、河東小学校では、このように高学年でも高い数値であるということが分かります。次に、「英語を使って友達や先生、ALTと話すこと」の項目では、宗像市平均が77%、に対し、河東小学校では85%の高い数値であります。さらに「英語で話しているのを聞くこと」は宗像市が74%であるのに対し、河東小学校は96%。さらに、6年生においては、宗像市全体が71%であるのに対し、98%と非常に高い数値を示しました。4技能の中でも、小学校段階で重要とされる、話すこと、聞くことを楽しいと答えている児童が非常に多いという事が分かりました。これで、私からの報告を終わります。

【谷井市長】 ALTを入れてから一度議会の中でALTの効果はどうかと何年前にありまして、内容と効果をチェックしたことがあります。その時に問題になったのは、やはり中学校では2年生、3年生になるにつれALTの必要性というか、活用というのが少なかったという結果が出たのです。それで小学校を中心にやるのかという議論になりまして、中学校1年生、2年生になったときにどうしても高校受験が介入したときに、カリキュラムの問題もあると思うのですが、そういう中で引き続きALTが充実させていく。それともう一つは、私たちの政策ですが、グローバル化、国際化の子どもたちを育成していきたい。宗像市でも高校生のリーダー養成塾、あるいは環境会議、子どもの育成プログラム、サマーキャンプ、スピーチコンテストなどなど教育委員会と一緒に増やしてまいりました。河東小学校が実績を上げているということをお聞きしまして、非常に教育委員会にいる先生方に感謝を申し上げます。今後も宗像の子どもたちの語学力、国際力をつけてほしいと思います。

【遠矢教育長】 小学校では2020年度くらいから、現在の5、6年生で行ってい

る外国語活動が教科化されるということと、小学校3年生ぐらいまで外国語活動が下りてくるということで、先ほど話がありましたように特にスピーキングとヒアリングの力をやはり小学校段階でつけたい、そういった方向性が国にはあるようです。それに先んじて宗像市がこういった形で取り組んでいるわけですが、先ほどALTを常駐にすればかなり効果があるということです。教科の時間の中でどれだけそういった活動の時間を確保するかっていうのは現在、国で審議されていますけど、授業のコマ数を増やすのが難しい中で、国の方では朝の帯時間であるとか昼休みであるとかそういったものを使ってはどうかという検討がなされていますが、もしそういう形になってくるとすれば常駐化していつでもALTとのコミュニケーションができるような状態は有効かなと感じました。

【谷井市長】やはり国もグローバル化国際化の中での日本の遅れを取り戻すべく、子どもたちに英語教育を推進したいという方針を出しているようです。問題は、現実におられる小中学校の先生方への英語教育に関する研修・育成をどうするか、石丸委員もお越しになっておられますが、教員を養成する福岡教育大学でも今後議論していただきたいと考えております。

【遠矢教育長】先生方への研修ですが、ALTほど流暢に話す能力は必要ないと思いますが、ある程度の語学力は必要かと思えます。学校の中で英語教育のコーディネーターのような中心になるような先生を育成する研修を行っている状況です。

【谷井市長】石丸委員にお聞きしたいのですが福岡教育大学の取り組みはどのような状況でしょうか。

【石丸委員】小学校の先生を支援するというところで、英語習得院でネイティブな先生に教わっている。英語をシャワーのように浴びるとするのが一番重要じゃないかと思えます。私立などがイマージョン教育といって国語を除くすべての教育を英語で行い、段々と英語に慣れるような教育を行っている。こちらの子どもがALTがかなり難しい言葉で言っているけど分かっているようだったし英語を恥ずかしがらずに話す様子が先ほど紹介されました。そういった雰囲気というか、大きな声で言えるようになるというのが非常に大きな成果ではないでしょうか。ただ、すべての学校にALTを配置するのは予算の問題もあります。家庭教育と連携しながら、例えばテレビ番組の2ヶ国語放送で英語に慣れることもできるのではないのでしょうか。学校に子どもがいる時間は限られていますしALTを常駐させるというのも費用もかかります。英語のシャワーをいかに浴びせるかといった仕組み作りが重要ではないか。そういった意味では大学も、先生方に英語のシャワーを差し上げる一助となればと思っております。

【谷井市長】市内のコミュニティ運営協議会の中で寺子屋を開くところが増えてきている。これは英語塾など専門的なところとは違って、この中の一つで、教育大生にボランティアとして協力していただいて、吉武地区だけではなく岬地区でも行っていますが、この取り組みを市内に広げたいと思えます。もちろん英語に限ってではありませんが。僕らみたいに受験英語ばかりで話せない、その前に聞き取れないというのを解消したい。

【子どもグローバル人材育成担当部長】 寺子屋事業については、各コミュニティでの取り組みとして推奨していて、6地区のコミュニティで寺子屋を行っていて、その中で学習支援的な要素と合わせて社会教育的な要素があります。各コミュニティ独自の寺小屋のイメージがございます。その中で先ほど市長が言いましたように、教育大生が関わるというような手法で行っており、特に吉武地区においては寺小屋事業と学童を一体的に活用するようなやり方、サニックスの選手が実際にラグビーを教える内容もございますので、そのような地域やスポーツ関係の人材とかと連携もやりながら留学生との交流などを今後増やしていけるのではないかと思います。

【谷井市長】 留学生は非常にありがたい人材ですね。赤間宿祭りなど色々な場面で留学生も参加したいということで、自分たちで着物や仮装までして留学生がどんどん入ってきてくれるので、英語の部分については留学生がやってくれて、彼らも日本語を勉強したい、逆にそういう面で参加させてくれという話があります。ALT教育の効果には3回目になりますけど、宗像環境育成プログラムにも表れていると思います。市内中学生の約30人が参加しています。自分の考え方を世の中に発信する、怖じ怖じせずに自分の考えを発信する、それが非常に素晴らしいです。英語力だけでなく、それが一つのグローバル人材の成果かなと思っています。ですから、河東小学校、河東中学校からの育成プログラムに参加する子が多く成果をあげているということを皆さんに申し上げたい。

【中岡委員】 今説明があった通りで、ALTの先生と日常的に話ができるというのが、子どもたちにとって一番有効な手立てになっているだろうと思います。ただ、常駐するのが一番いいことだと思いますが、それが難しいということになれば、それができるまでの間どうしていくのか、常駐していない学校をどうするのかをやはり考えないといけないだろうと思います。その方法としては中々難しいと思いますが、日常的に会話ができる状況を、ALTだけでなく、地域の中にも英語が堪能な方、日常的な会話だと大丈夫ですよ、指導はできないけれども日常的な会話くらいならできますよという方に、何とか学校に来ていただいて、それこそ昼休みに、あるいは放課後に子どもたちと英語で話をするような機会を作れないかと思います。地域の人材、あるいは大学生、英語科の学生、留学生、そういった地域におられる英語が使える方に学校に来て頂くようなことを、ALTが全校に常駐配置されるまでの間は考えないといけないのかなと感じております。

【谷井市長】 学校も地域の人たちなど活用してもいいし、南郷では地域の方がアンビシャスなどいろいろな形でされていますのでそれを広げたいと思います。

【教育子ども部長】 放課後の子どもの居場所の中に、遊びを通じて、ALTがいる。これがうまく稼働すれば他の校区にも、市長がおっしゃったような色んな方に支援を頂いて展開できるかなと考えております。吉武地区の良さはALTが常駐しているということで、福岡教育大の留学生も集まるという相乗効果もあります。グローバルアリーナというのが地元にありますので、ここに年間通じて相当な外国の方が出入りしておられます。そういったところで、素地作りを地域の中でしていくことが必要かなと考えております。

【谷井市長】 A L Tは小学校も中学校も、今2校か3校に一人先生をつけている。この辺の効果はどうでしょうか。中学校3年生、2年生どちらが弱いとかどうなのでしょう。

【佐々木指導主事】 河東中学校にインタビューに行きまして、英語科の先生たちに聞きましたところ、即答で「全然違う」ということです。何が違うのかと言うと先ほど言いましたリスニング力。聴くことですね。それから話すことですね。恥ずかしがらずにというところが非常に大きな点です。だから英語で話すことを恥ずかしがらずに、表現力がついているということは、日本語で表現する能力もおそらく高いのではないかというふうに考えられます。思春期を迎えて大人との交流や人前で自分の思いを話すというところにつっかかりが出てくる子どもたちも多いですが、そういった点においても身近にA L Tの先生とたくさんの英語で話してきた成果が表れているのかなということ、口々に全ての先生がおっしゃっていました。

【教育子ども部長】 現在A L Tは9人雇用しております。もともとの定数は7人でございます。中学校7校区に1人ずつ。ですから、そのA L Tは中学校区の小中に行きます。今回プラス2人というのが、河東小、吉武小に配置した分です。7校区7人はベースとしてあるとご認識いただききたいと思えます。

【谷井市長】 英語塾は宗像もありますけれど、宗像市はA L Tその他の先生の力で補っている。A L Tのあり方と他自治体に比べた場合の費用対効果について検討に着手してもらいたいです。

【教育子ども部長】 予算的なところを申し上げますと、9人のA L Tを派遣するというところで年間約4千万円という事業費が発生しております。

【谷井市長】 4千万円が高いのか安いのかという問題があるけれど、やはり税金ですからね。それなりの効果が求められるということです。河東小学校に専任でA L Tを配置したことは非常に素晴らしいと思えますし、有難いと思っております。ですから、全体の底上げとして今後4千万円を投入し、私たちが目指すグローバル化、国際化に対応できるような子どもたちが育ってほしいことについて、布石のようなものにしたいと考えています。

【子どもグローバル人材育成担当部長】 お手元にグローバル人材育成プランをご用意しております。15ページに人材像の実現に向けた事業効果の向上ということで、小中学校における外国教育の強化について明記しております。人材育成プラン、全体の効果や検証が非常に大切になってくると思いますが、学校教育現場におけるA L Tを活用した基本的な強化の部分と、社会教育部門としてのリーダー養成あるいは国際化に向けてのグローバルな視点というところを両輪で今後進めていきたいと考えております。

【谷井市長】 石丸委員がご指摘されたように、学校の先生の英語に対する質を上げれば、必然的に底上げになるわけです。特に小学校の先生だと思います。そういったことも教育委員会で考えていただきたいと思えます。宗像には福岡教育大学があることが大

きいと思います。

【白石委員】 強い味方がいていいですね。

【石丸委員】 しっかりと地域のニーズを受け止めたいと思います。

【谷井市長】 ぜひ大学内でも話題にしてください。

【白石委員】 常駐、必ずそこに居てくださることが一番良いことです。英語をしやべっていつでも応えてくれる人が身近にいるということはとても素晴らしいことだと思います。バイリンガル教育を考えた場合、それが一番だと思いますが、現状、予算や ALT の人数等いろいろと問題があるので、現在いる先生をより活用、活躍頂き、週に1回だけ行っても貰うこともありかなと思います。人を派遣する部分では、週に1回か2回。1日のうちで時間を区切るなど。寺子屋のことを話してありましたが、そこも含めて子どもたちが学ぶであろう時間帯に配置するというのも手段の中にあっているのではと考えます。それから、石丸先生のお話の中に、映像や音として入るものも上手な使い方、そういうものもソフトの面で支援する。時間の予約を入れ設定をすることで、外国人と対話できる機会を得ることができます。そのようなことができるということを子どもや保護者に伝えることも大切なことだと思います。学校教育以外でも学ぶ方法を知らせることもソフト面では考えられるのでは。時間帯のアクセス方法、番組の提供内容、それから操作方法も含めてですね。今日はタブレットを使ってみて、目から鱗の部分が沢山ありました。今後の進展が楽しみです。

【谷井市長】 地域に有識者がたくさんおられます。社会教育的にそれぞれやっておりますので、グローバル人材育成プランの中で具体的に整理していきたい。何と言っても最後は学校教育の中で英語という共通語をきちんと学ぶこと。そして自分の考え方を遠慮なく発信できる、対話ができる。そういったことが繋がっていくわけですから、やっぱり学校教育は非常に大事だと思います。教育委員会として各種計画を策定していますので、議論していきたい。委員の方々にも色々ご提言いただきたい。今日のこの1回で終わるわけではありませぬ。

【宮司委員】 みなさんが言われた通りですが、先ほど佐々木指導主事が言われたように、自信を持って英語で話すのは、母国語の日本語もすごく上手に言っているという言葉がすごく頭に残っています。常駐できるのが一番いいのですが、みんなで宗像市内の子どもたちの英語力を上げられたらと思っています。

【谷井市長】 ALT の活用の成果が今のところ出ているということですね。今後も引き続き我々のグローバル人材育成プランの中でその子どもたちを育成していきたい。英語だけではないと思います。色んな子どもたちが元気よく自分の能力を発揮できるような機会をつくるのが我々の仕事だと思います。

【遠矢教育長】 子どもたちが自分の考えや思いを伝える場合、日本人ですから基本は日本語で考えて英語に直していると思います。今まで週1回とかの時間で慣れ親しむというのも大切ですが、学校教育の中でできるだけそういう機会を増やしながら取り組んで

いくということと、学校外の活動でも様々なプログラムを総合的にやっていくのが必要だと思います。

【谷井市長】 教育長からもありましたが、学校現場も含めてご意見を取り上げていく中で、教育委員会の中で整理し、この総合教育会議の中でお話ししていきたいと思います。それでは、すべての項目について協議終了しましたので、平成28年度第1回宗像市総合教育会議を閉会します。

【教育政策課長】 次回は、10月27日を予定しております。詳細につきましては別途ご案内申し上げます。